

▼ロカイン注 [注]

- 【重要度】 【一般製剤名】 プロカイン塩酸塩 procaine hydrochloride 【分類】 水溶性局所麻酔剤
- 【単位】 ▼1%5mL・▼2%1mL
- 【常用量】 ■硬膜外麻酔：300～400mg [最大600mg] ■伝達麻酔：10～400mg[必要に応じてアドレナリン（通常濃度1：10万～20万）を添加]
- 【用法】 硬膜外麻酔：2%，伝達麻酔：1%，2%製剤を使用
- 【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)
- 【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)
- 【特徴】 粘膜炎への浸透力は弱く、鼻、眼等の表面麻酔には不適。血管収縮作用はないので効力持続と吸収持続と吸収防止の目的でエピネフリンを加える。持続時間が短いため神経ブロックには適さない。
- 【主な副作用・毒性】 ショック、めまい、不安、興奮、霧視、眩暈、悪心・嘔吐、過敏症など
- 【tmax】 皮下注 1hr (Stevenson AJ, et al: Equine Vet J 24: 118-124,1992)
- 【代謝】 循環血液の中でエステラーゼにより速やかに加水分解され、パラアミノ安息香酸とジエチルアミノエタノールに変換 (1)
- 【排泄】 腎排泄 (1) 尿中未変化体排泄率 0.5%未満 [sc] (1) 50% (個人差あり) はパラアミノ安息香酸として尿中排泄 (1) 【CL】 1mg/kg/min を持続静注：80mL/min/kg、1.5mg/kg/min を持続静注：40mL/min/kg (Seifen AB, et al: Anesth Analg 58: 382-386,1979)
- 【t1/2】 2.5～4.9hr (2) α 相 2.49min、 β 相 7.69min (Seifen AB, et al: Anesth Analg 58: 382-386,1979) 【透析患者の t1/2】 3～4.9hr (2)
- 【蛋白結合率】 約6% (1)
- 【Vd】 1mg/kg/min を持続静注：0.79L/kg、1.5mg/kg/min を持続静注：0.34L/kg (Seifen AB, et al: Anesth Analg 58: 382-386,1979)
- 【MW】 272.77
- 【透析性】 データなし (1)
- 【pKa】 8.8 (1)
- 【更新日】 20140807

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。